

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702115
法人名	医療法人 権頭クリニック
事業所名	グループホーム華里
所在地	福岡県北九州市八幡西区八枝3丁目12-10
自己評価作成日	平成23年12月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年1月17日	評価結果確定日	平成24年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム華里は、小学校や市民センターが近くにあり、地域交流の拠点としては恵まれた環境にあります。「その人らしくあるがままに」を理念に掲げ、ご家族様や地域の方々の協力を得ながら、それぞれの生活歴を大切にし入居者様個々の希望を現実化できるよう、個別性を重視した入居者様本意のケアにつながるよう本人様、ご家族様、地域の方々、主治医、職員などがチームとなりケアに日々取り組んでおります。職員は、入居者様やご家族様に満足なサービス提供を行う為、定期的に内部勉強会の開催や積極的に多くの外部研修にも参加し職員全体が知識や人間性、向上心を高めあひながら、質の良いケアを一人ひとりの入居者様にサービス提供を目指し努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階建ての1階にはデイサービス事業所が併設され、2,3階に「グループホーム華里」は位置しており、病院や郵便局、コンビニエンスストア、小・中学校が近隣にある、利便性の高い周辺環境の中にある。すぐ近くに母体となる権頭クリニックが在り、24時間の医療連携体制が構築されていることは、本人、家族にとって、大きな安心感となっている。担当者会議には多くの家族が参加し、関係者間の協議を経て介護計画を作成していることや、ピアノコンサート、絵画展、喫茶店、中華料理の食事、スポーツ新聞の購入等、個別の外出支援にも力を入れており、「その人らしくあるがままに」の理念の実践をうかがうことができる。今年度は近隣に、特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模多機能ホーム等からなる複合施設も立ち上げられ、地域の中での存在感も高まっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「その人らしくあるがままに」に沿った入居者への支援を行っている。入居者の趣味・趣向を伺い地域の市民センターを中心に活動に参加させていただいている。	「その人らしくあるがままに」を理念として掲げ、目に付きやすい場所に掲示している。法人内研修で地域密着型サービスの意義を学び、職員への周知を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より近所の方には元気に挨拶したり声を掛け合う等、日常的な付き合いが出来るよう努めている。また、行事等あればポスターを掲示したり声をかけて参加していただいている。ふれあい昼食会や金山川祭り、八枝小学校のフェスティバルや学習発表会にも毎回参加させていただいている。	市民センターより行事案内を受け、積極的に参加しており、地域との交流を重ねている。盆踊りには、400人以上の参加を得ており、盛況に開催されている。郵便局に利用者の作品を展示し好評を得ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで「認知症」や「身体拘束」の勉強会の内容の報告を行ったりしている。今後、市民センターを中心に、子供たちが育てた野菜で子供たちが作った料理を振舞ってもらえる食事会や、芋を育てて芋煮会を計画している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度設定しており入居者にも参加していただいている。状況の報告や取り組みを説明することにより意見や助言を頂いている。市民センターでの行事やクラブ活動、おひさま園での行事等情報交換を行っている。議事録などはご家族がいつでも見られるよう設置してある。	近在の市民センターを会場にして、入居者、家族、地域代表者、市民センター館長、民生委員、包括支援センター職員のメンバー構成に加え、母体医療機関や同法人デイサービス・グループホーム職員等も参加し、意見を出し合い運営に反映させて行っている。市民センターを会場にすることにより、年間行事等の参加協力がスムーズに行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームでの対応が困難な事は地域包括に連絡、相談し入居者の方もお話され、今後の対応としてウェル戸畑みるとらいとに繋げることができた。	介護サービス相談員の受け入れ、市民センターへの広報誌の設置、中学校の職場体験実習の受け入れ、高校福祉科の実習受け入れ等、連携が取られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っていない。身体拘束をしない為に見守りを強化したり、一緒に過ごして安心できる環境作りをしている。マニュアルはいつでもみれる所に設置し危険防止の為に必要になった時の為の説明・同意書は準備してある。「介護保険指定基準における禁止事項の対象となる具体的な行為」を全職員が周知するように勉強会をしている。	声かけ・見守りによる安全面の配慮を徹底し、身体拘束は行わないという姿勢を職員間で共有し、定期的に身体拘束についての内部研修を実施している。環境面への配慮も行いながら、行動を抑制しないケアに取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 華里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待の内容を理解すると共に様々な事例をもとに適切なケアを行えるよう取り組んでいる。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加させていただき、勉強会を開いている。	職員間で輪番で内部研修を行い、理解を深めて行っている。複雑な相談内容に関しては、母体法人の生活相談員にも助言を求めながら、情報提供や活用に向けた支援を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、入居者やご家族に理解・納得していただけるよう説明を行っている。理解されにくい部分についてはその都度確認を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設けている。意見・要望等反映できる事は取り組んでいる。	運営推進会議や担当者会議にて、入居者や家族の意見や要望を受け、運営に反映できるよう努力している。また、日頃より職員に話しやすいような雰囲気づくりに努めている。家族会を運営し、県だより「たんぼぼ」と、通信「華里おひさま園」の他、近況報告と共に写真も沿え、家族との情報提供に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者より定期的な面談を実施している。意見や提案を聞き、反映できることは取り入れている。	毎月、全員参加にて、2,3階合同ミーティングとフロアミーティングを行い、意見や提案を聞く機会を設けている。母体の事務職員やディサービスの職員からの視点での、ホーム内の課題を観察してもらい運営に反映させて行っている。自己評価作成も「どんな時地域と交流していると感じるか」等、管理者が職員に聞きながら作成している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状態把握に努めている。定期的、必要に応じて面談を行い職員の意見や考えを聞いている。体調に応じ勤務調整も行っている。職員の業務についての情報収集を行い常に職員に声掛けを行ったり気遣いを示している。職員の意思確認をし、希望する研修には参加出来るようにしている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢や性別に関係なく必要な人材であれば採用している。また職員の経験やレベルに合った研修への参加、責任感や達成感を持ってもらう為役割分担をしている。	職員の募集や採用は、資格、性別・年齢等の制限は行っていない。常勤職員も多く、福利厚生の実施にも取り組みながら、人間関係を大切にしている。また、資格取得者への補助もあるなど、自己実現の為に支援を惜しまない。環境整備、物品、食事等担当を決め、職員の得意とする力を発揮して行っている。	

福岡県 グループホーム 華里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部研修や施設内研修を通じ職員教育に取り組んでいる。また個別面談時に指導を行っている。研修や勉強会を通して人権に対する意識向上を図るとともに自己学習を促し、日々取り組んでいる。</p>	<p>外部研修、併設の施設の合同研修、内部研修で入居者の人権の尊重と、理念に添った介護の提供に向けて、職員一人ひとりが理解し、啓発活動に繋がっている。1階のデイサービスにて1～2週間実地研修を行い、他サービスでの関わりも学びながら、客観的視点を確保している。</p>	
15		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験やレベルに応じて研修参加している。適切な助言や指導が出来る職員を配置することで知識や技術、考え方の向上に努めている。内部研修も積極的に行っている。</p>		
16		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>隣の生活圏域に新設された施設の新人研修の講師をさせていただいたり、研修にも参加している。また、入居者を連れて遊びに行くなど交流を通じてサービスの質の向上に努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人からお金に不安がある等の訴えがあり、聞き取りを行っている。ご本人とご家族に話しの内容の食い違いはあるがご本人の思いを受け止めるように努力している。</p>		
18		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談から入居に至るまでにご家族の直面している事や困っていることを傾聴し、ご家族の苦労や不安なことを受け止めることが出来るように努力している。</p>		
19		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>見学や相談に来られた際は、相談内容に応じて介護保険施設の説明や有効と思われる施設の説明を運営者や管理者、施設の社会福祉士が行っている。</p>		
20		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者が職員に対して指導して下さり、学ぶことがたくさんある。人生を重ねられた先輩として経験や心情をお聞きしたり一緒に過ごす事により学んだり支え合える関係を築いている。</p>		

福岡県 グループホーム 華里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者の手助けを行って下さるご家族には職員は交代せずそのまま行っている。日常生活の情報を提供しご本人の生活状況をご家族に知っていただいている。行事への参加や、フロア清掃、洗濯物たたみなど積極的に行ってくださっている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話をする事で馴染みの場所を忘れてしまわぬよう取り組んでいる。また会話の中に出て来た場所へも可能な限り外出している。ご自宅への外泊支援も行っている。(送迎・相談)	昔の職場をドライブがてら見に行く等、一人ひとりの希望に添った個別支援に力を入れている。家族へは写真を送付し、関係の途切れない支援を行っている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や性格を考慮し入居者が孤立せず仲良く楽しく過ごしていただけるように努めている。認知症の方は他者との兼ね合いが難しく周りで過ごす人によりその方の気分や状態が変化する事もある為、入居者同士の関係を十分観察し良い関係が保てるように配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡により退居した利用者家族とお話をする機会をつくり思いを共有している。また行事のご案内なども出させていただいている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族やご本人からの情報やご本人の表情や仕草をしっかりと観察することで好き・嫌い等の本人本位の視点で見るように努力して暮らしの中に取り入れるようにしている。	日頃の関わりから、希望、意向の把握に努め、日々の記録にて共有を図っている。思いや意向の把握が難しい場合には、担当者会議での家族の意見を参考にしながら、本人本位に検討している。	介護記録等に丁寧に記録された希望や意向等をもとに、アセスメント情報を更新していくことで、職員間の共有が図りやすく、日々の関わりやその人らしい介護計画へと結び付けていくことが期待されます。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などは本人との会話やご家族からの情報収集にて行っているが会話の中で知った情報は介護記録に記録として残し、周知できるようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方はご本人の希望や生活習慣を尊重している。毎日ご本人の状態をモニタリングし状態把握に努めている。生体動作を通して有する力を把握する為に状態を判断する場合は意図的に必要以上の介助をせずご本人の力や状態を観察する。		

福岡県 グループホーム 華里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方についてはご家族の意見を求めている。ご本人がより良く暮らす為にも月1回のミーティング時に意見を出し合い、サービス担当者会議では本人・家族・必要な関係者の意見を求め検討しケアプランを作成している。期間に応じてモニタリングを行い、介護計画の期間内であっても入居者の状況変化により身体的・精神的状態が大きく変化し現行の介護計画が機能していないことがあれば担当者会議を行い介護計画の見直しを行っている。	ユニットごとのミーティング、2,3階合同のミーティング、家族参加の担当者会議等を通じて、一人ひとりに合った介護計画を作成している。毎月のモニタリングを実施し、状態変化の際はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画作りを行っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入している。気付いた事や行った事、ご本人の様子や日常生活の変化、ご本人の言葉、表情を記録し情報交換の場として生かしている。介護計画作成時には介護記録を見直し、見落としや新たなニーズがないか確認している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	H20年4月～短期入所を行っている。デイサービスや医療機関との連携によりマッサージや身体的な相談、日常生活での楽しみ(音楽セラピーやおやつ作り、華道)等を取り入れている。入居者が困る事なく、より楽しく快適な生活が送れるように、持っている機能を有効活用していきたい。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署には年に2回防災訓練に協力していただいている。教育機関からは実習生や研修生、職場体験学習などの受け入れを行っている。行事には地域のボランティアや中学校のボランティアクラブの訪問を受け入れている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の納得が得られたかかりつけ医と日常的に情報交換し24時間相談できる体制がある。以前から受診していた病院などがあれば継続して通院して頂き他医療機関との連携も図っている。入居者・ご家族様の希望に沿った支援を行う。	入居者、家族との話し合いのもと、かかりつけ医を決めている。全員が母体のクリニックをかかりつけ医とし、2週間に1度往診を受けている。他科受診については、家族状況に配慮しながら受診支援を行っている。	

福岡県 グループホーム 華里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>身体状態などについて、日中はすぐに相談できる看護師がいる為、必要に応じ医師や看護師に相談している。</p>		
34		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院された時は多く面会に行き、馴染みの顔を見せる事で安心して頂ける様にしている、と同時に病院関係者との情報交換やご家族との連携を密に取っている。</p>		
35	(15)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>毎月のミーティングで話し合いや職員同士の情報収集も密に行っている。また、残存能力を見極め支援できるよう、小さな変化にも気付けるようにしている。看取りをご本人や家族に安心して過ごしていただけるように研修に参加している。看取りに関する事例等の収集、勉強会も行っている。医師・看護師との連携をとっている。</p>	<p>入居時に、重度化や終末期に向け説明を行い、意向を確認している。近隣の母体医療法人との24時間医療連携体制を確立し、情報共有を図りながら、入居者、家族、職員の安心できる体制づくりに取り組んでいる。これまでに看取りを行った経緯もあり、研修にも積極的に参加している。</p>	
36		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作成している。 シミュレーション・実技研修の実施(夜間帯の転倒時の応急手当の方法など) AEDの設置 緊急時の対応が的確に行われる様に緊急時の対応について専門職などによる勉強会や研修を定期的に行っている。</p>		
37	(16)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を行っている。訓練時に地域住民に避難訓練のお知らせ・参加をお願いしている。避難経路・場所・役割分担表・連絡先などを掲示している。</p>	<p>年2回、避難訓練を行っている。地域にも案内を行い、1階のデイサービスや市民センター利用者も訓練に参加している。消防署の指導を受け、エレベーター横の階段踊り場を避難場所とし、職員同士周知徹底している。</p>	<p>飲料水や非常食等の備蓄品についても、検討していくことが期待されます。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
38	(17)	<p>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>守秘義務を徹底している。プライバシーを損ねない様、職員は言葉遣いに十分配慮している。職員一人ひとりに個人情報について周知してもらい、書面でも誓約書を書いてもらっている。</p>	<p>選択の場面を作ることで、一人ひとりの意思、意向の確認を行いながら支援に努めている。呼び名も、本人や家族に聴きながら、希望に添った支援を行っている。</p>	

福岡県 グループホーム 華里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者の意思を尊重し、理解力や認知力に合わせた声掛けや、出来る限り自己決定できるような働きかけをこころがけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の流れを優先せず「～したい」などの希望は取り入れご本人のペースに合わせている。希望を叶えられる様、飲酒や喫煙についても個別に対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回最終月曜日に理容師に来て頂いている。ご本人の好まれる装飾品を使用している。入居者本人の希望を取り入れ、おしゃれを楽しめる様に理容師やとも情報交換していく。また、化粧の取り入れもしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたい物を聞いたり、職員同士でどんなものが喜ばれるか話し合い、献立表に反映している。野菜切りや食器拭きは出来る範囲で行って頂いている。食事を楽しく美味しく食べていただけるように一人ひとりの食事形態に合わせ、ご本人の力で食べていただけるよう対応している。	職員と一緒に配膳、引き膳、後片付けなどを行っている。食事は、入居者と職員が同じテーブルで同じ物を食し、和気藹々とした雰囲気である。入居者の希望や法人管理栄養士のアドバイスをもとに献立を作成し、かかりつけ医の指示のもと、一人ひとりに応じた食事形態への配慮を行っている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食事摂取量を考慮し、毎月の献立については、併設のデイサービスセンターの管理栄養士に相談し、栄養バランスの面での指導をいただいている。食事摂取量のチェックを行い食事摂取量が著しく低下しないように注意している。栄養や水分が不足しない様に努める。また、一人ひとりの食事形態に合わせ(ミキサー食や刻み食等)摂取していただける様取り組んでいく。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。出来る限り自力で行っていただき不足部分のみスタッフが介助している。訪問歯科での口腔内のお手入れや口腔状態に異常や疑問がある時は併設のデイサービスセンターの歯科衛生士の協力を得たり訪問歯科を受け、一人ひとりに合ったケアを提供していく。		

福岡県 グループホーム 華里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握・一人ひとりに合わせたトイレ誘導を積極的に取り入れている。また毎月のミーティング時に職員で意見を出し合い改善に努めている。気持ちよく排泄していただけるよう、食事や水分摂取等にも気を配っている。ご本人の不快感や皮膚への負担、軽減に努める。	排泄チェック表や仕草等から、トイレ誘導を行い、個別に応じた排泄ケアを行っている。下剤だけに頼ることなく、朝食前の牛乳やヨーグルト、野菜摂取、リハビリ体操などで、便秘予防への配慮を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず水分補給や食物繊維の豊富な食材のメニューを中心に食事を提供し、適度な運動(歩行訓練・リハビリ体操など)を心掛け、牛乳やヨーグルトなどを提供し便秘防止を行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の好まれる時間や湯温に合わせ入浴していただいている。室温・物音・照明等にも注意し、気持ち良く安心して入浴を楽しんでいただける様、入浴前の体調確認も行っている。また入浴後には希望される飲み物(冷茶・温茶・ポカリスエット・牛乳等)の提供も行っている。それぞれの方々の都合や希望(デイサービス利用・受診・外泊)に合わせ日程調整し、入浴していただいている。	入居者の希望に合わせて、柔軟な対応に努めている。季節の柚子湯や入浴剤を、入居者の希望も聞きながら使用するなど工夫をし、支援を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる様な配慮、室温や物音・照明等に注意している。日中も入居者の希望や体調に合わせて休息していただいている。不眠の方についてはその時々状態に合わせて対応し、落ち着いて入眠していただける様にしている。安眠していただく為にも体内リズムを整え、その時々状況に対応できる様、職員同士で情報交換を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師からの説明を受け、スタッフで3回再確認している。飲み忘れや誤薬を防止する為にも薬のケースに薬の名前と効果を掲示している。お薬の説明書を活用している。一人ひとりが使用されている薬を把握し、また効果や副作用についても理解する様努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴・力に合わせ、入居者様と職員が一緒に行う事により日々の生活から役割ができ、生活を楽しんでいただけるよう取り組んでいる。天気の良い日には日光浴も兼ねて中庭で遊ぶ園児との触れ合いを楽しまれている。		

福岡県 グループホーム 華里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出の機会を提供している。ご本人の希望があれば随時外に出るよう努めている。気分転換や季節感を楽しんで頂くためにも買い物やドライブ等、希望を引き出しながら行い、入居者のストレスを軽減できる様取り組んでいる。	近くの市民センターや小学校の花壇見学、コンビニエンスストアへの小さな買い物等、日常的な外出を行っている。また、ピアノコンサート、絵画展、喫茶店、中華料理の食事、スポーツ新聞の購入等、家族と共に希望が叶う様、個別支援に力を入れている。朝の掃除時に窓を開放することで、季節感を体感してもらっている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力に合わせて、買物時にはお金を使う事への支援を行っている。ご本人の希望に応じ、物品や食品の購入を行っている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望がある方は電話を使うようにしている。 「華里だより」をご家族へ郵送する際にご本人自ら書いた手紙を同封することもある。また、普段書かれない方にも年賀状などの季節のおたよりを出せるよう声かけなどとして支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や照明、匂いを調整し、入居者にとって快適な環境となるよう努めている。時には、心地よい音楽(クラシック)を流すことで落ち着ける空間作りに取り組んでいる。	2,3階に居住するホームは、3階への吹き抜けとベランダからの採光で明るく、居心地の良い共同空間となっている。居間には6畳の畳スペースもあり、多目的な空間となっている。フラワーアレンジメントの日も設けられ、季節感を楽しむ機会となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は視覚的に2つに分かれるようになっている。また、ソファや、リクライニングチェアなどを利用し、気分や体調に合わせて気の合った者同士思い思いに過ごしていただいている。一人ひとりの性格や思いを考慮し、居心地の良い空間作りを心掛けている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に説明し、本人が使い慣れた物や好みの物を居室に置き、住み慣れた環境作りをしている。	馴染みの家具や置物を持ち込み、自宅と同じ寛ぎのある部屋作りを、家族と共に工夫している。仏壇を持ち込まれ、毎日の水替えと花を活けることを生きがいとされている方もあった。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室をわかりやすくするために表示を大きくしたり写真をはったりしている。カレンダーを指示し、日にちの感覚や季節をわかりやすくできるよう工夫している。		